

佐賀県は知的財産を

守り育てる み出していく 商標編



神崎やぐら寿司 代表
佐藤 浩二さん



「妻がつくるプリンを広めたい」 “人妻”に込めたまっすぐな願い

人妻プリン

吉野ヶ里歴史公園ほど近い神崎市で、昭和39年の創業以来親しまれてきた「やぐら寿司」。お祝い事や宴会など、地域の人々が集う交流の場として賑わう中、二代目の浩二さんはアイデアがありました。「寿司にはお酒といふ父の考え方を変え、お食事だけでも来店してもらえる店にしたいと常々考えていました」と当時を振り返ります。

20年ほど前、「茶碗蒸しの機械でプリンがつくれる！」という発想から、コ

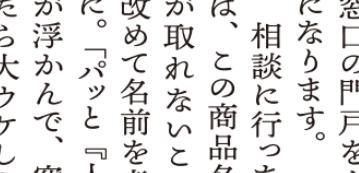
べきつかけ～
はじまりは評判のプリン

そうした中、真由美さんが大病を患い、数ヶ月間療養することに。「妻

売るための商標登録

がいない間は私がつくりましたが、同じレシピでも同じ味にならないんです。妻じゃないとダメだと実感しました。

ス料理のデザートとしてプリンの提供を始めます。卵や練乳、砂糖にいたるまで素材にこだわり、妻の真由美さんが丹精込めてつくるプリンの評判は次第に広がり、「売ってほしい」と言われるほどの看板メニューになりました。



浩二さんとプリンの製造を担当する妻 真由美さん

相談に行つた浩二さんは、この商品名では商標が取れないことを知り、改めて名前を考えることに。「パツと『人妻プリン』が浮かんで、窓口で話したら大ウケしたのでイケると思いました」とインパクトの重要性を実感。窓口担当者のアドバイスを受け、プリン以外でも使用できるよう「人妻」のワードで幅広い食品での

申請を行い、無事に登録ができました。担当者は、プリンのバリエーションを広げるために県内の優れた食材を紹介してもらっています。

得るために地元商工会の販路拡大セミナーに参加した際、商標登録のアドバイスを受けたのがきっかけでした。担当者と相談に行つた浩二さんは、この商品名では商標が取れないことを知り、改めて名前を考えることに。「パツと『人妻プリン』が浮かんで、窓口で話したら大ウケしたのでイケると思いました」とインパクトの重要性を実感。窓口担当者のアドバイスを受け、プリン以外でも使用できるよう「人妻」のワードで幅広い食品での

知的財産に関する悩みや疑問はこちらまで

相談無料 秘密厳守

INPIT 佐賀県知財総合支援窓口

0952-30-8191 (平日)
8:30~17:15

chizai@mb.infosaga.or.jp

佐賀県内の相談・支援事例を

ご覧いただけます。

専門家のアドバイスを受けて、アイデアの種に水

守り、育て、新たに生み出す条例について

は、佐賀県知財総合支援窓口

佐賀県 知的財産 検索

次回は2/26(月)掲載

QRコード

QRコード